

学校と、家庭・地域を結ぶ  
**白布城だより** 2017◆冬

発行：■栃木県立真岡高等学校定時制■〒321-4331 栃木県真岡市白布ヶ丘24-1  
Tel 0285-82-3413 Fax 0285-82-2913

◆巻頭言◆  
**思い出を知恵に**

教 頭 徳 原 肇

本校に赴任して9ヶ月ほど経った。辺りの景色もすいぶん見慣れてきたが、赴任当初の新鮮な記憶が今でもはっきりと残っている。

職員室前の廊下を北に向かって歩いていると、窓越しに記念館の大屋根が見えてきて、はっとした。そっくりだ。

それは、福田平八郎の『雨』という作品である。題名こそ『雨』なのだが、描かれているのは瓦屋根の一部を切り取った瓦そのものである。そこに、ぼつぼつと濃淡をもって雨跡が描かれている。単調な構図なのだが雨跡があるだけで、降り始めからしばらくの時間の経過に思いをはせることができ、さらに、降り始めの時に感じるあの土のような匂いまで感じてしまうようで、見てすぐに好きな作品になった。50 cm四方ぐらいだったろうか。小ぶりのキャンパスなのだが、画家の着想によって時空の無限の広がりを創り出すことができるんだと学んだ。

生徒の皆さんが、将来、どんな景色を高校時代の思い出としてもっているか、楽しみである。授業で「分かった」と感じたその瞬間だろうか、担任の先生との面談で悩みがはれたときの光景だろうか、部活で汗を流した時だろうか……。

この2学期も、たくさんの行事があった。9月には、定通文化発表会に向けて13名の諸君が校内選考会で発表した。皆、自らを振り返るとともに、これから展望するいい発表だった。10月には、県内の定通制高校が県教育会館に集い、各校の代表者による発表があった。発表を聞きながら、それぞれの体験を自分に置き換えて聞いたことだろう。修学旅行では、広島、京都などで本物を見てきた。11月には、生徒会役員による手作りの定時制祭、AED 講習もあった防火防災避難訓練、そして地域ボランティア活動を行った。ボランティア活動後の、ロータリークラブの方々との食事会での会話は、貴重な経験になったことだろう。2学期のさまざまな行事を、大切な思い出として持っている生徒がいることを、そしてそこから貴重な何かを掴んだ生徒がいることを願っている。掴んだものを、今後さらにあたためていき、これから生きていく知恵に昇華させていってほしい。

保護者並びに定時制後援会の皆様には、日頃より本校教育活動に多大なご支援をいただき、ありがとうございます。

皆様、どうぞよいお年をお迎えください。

## 二学期の足あと

### ●「全身学力」を高めよう。

9月1日（金）、第二学期の始業式が、本校多目的ホールで行われました。

式にあたり、菊地 透校長は、一学期の終業式の時の「目標を持ち行動することの大切さ」を、今学期も引き続き実行することを生徒達に話されました。「自分にしか分からない頑張りを目標に掲げて、結果、どのように変わったかを振り返る。何より、自分自身で頑張った自分を褒めたり激励したりできるようになることが、自分を成長させることになる。」と話されました。

更に、「知識と心と行動力をバランス良く成長させることが『生きる力』につながる。」と、全生徒にエールをおくられました。



## ●勇気を持って語ろう、自分を！

学校生活のリズムにも慣れた9月13日（水）、夏休みに全校生徒が取り組んだ作文の中から選ばれた代表が発表する「校内生活体験発表会」が、開催されました。

審査委員に塚田嘉代子 PTA 会長をお招きし、生徒会の進行で会は進みました。

代表生徒は、これまでの自分の生活を振り返り未来に向けて頑張る決意を述べましたが、その結果、4年次生代表下川弘之くんが「最優秀賞」に選ばれ、塚田優也くん（3年次）と清本はるみさん（1年次）が優秀賞に輝きました。

なお、下川くんは、栃木県大会に出場することが決まりました。

出場者	演 題	（発表順）
片岡 龍佑（3年次）	「三年次生の私」	
清本はるみ（1年次）	「学校生活」	
佐藤 未来（3年次）	「人生を楽に生きる」	
田上 祐子（2年次）	「これからの自分」	
高田 智也（1年次）	「定時制に入ってからの変化」	
高下 智光（2年次）	「今までの自分」	
橋本 明奈（2年次）	「過去から」	
塚田 優也（3年次）	「将来に向けて」	
ブランド・コリーン（2年次）	「一年間を振り返って」	
中村けんちろ（4年次）	「長い時間・短い時間」	
田辺 厚（1年次）	「変わっていく私」	
増淵 晃大（2年次）	「誇りある高校生活」	
下川 弘之（4年次）	「『社会人』が今、目の前に」	

## ●この感動は、宝物だ。

本校の三年次生は、10月17日（火）から19日（木）の三日間、関西（広島、京都方面）へ修学旅行に行きました。参加した生徒は、関東地方とは一味違う「空気」に戸惑いも感じたようですが、明るく元気な三年次生らしく、楽しい思い出もたくさんできたようです。

参加生徒達の感想は、来春に発行予定の生徒会誌『白布城』46号に掲載予定なので、楽しみにしてください。

## ●それまでの「自分の殻」を破る！

10月21日（土）、栃木県教育会館大ホールにおいて、「第34回栃木県高等学校定通文化発表会」が開催されました。

「生活体験発表」では、本校代表の下川弘之くんが堂々と発表していたのが印象に残ります。日ごろは物静かな下川くんが、会場内に響き渡るきれいな声で、「これまで、いくつかの迷いを乗り越えてきたことと、これからの人生の決意」を発表。客席で聴いていた先生方からも、賞賛の声が上がりました。

展示発表も、授業や放課後を利用して制作した作品が展示され、中でも、真岡木綿作品の展示に、他校生の興味が集まっていました。

## ●生徒会役員、張り切る。

昨年に引き続き、今年度も10月24日（火）、真岡ライブラリーの生徒と本校生徒会役員との交流会が行われました。

本校からは、原田えいじ会長を始め、下川弘之くん、中村けんちろくん（いずれも4年次）が参加しました。

初めは、知らない者同士でぎこちない雰囲気がありましたが、一緒にゲームなどをして慣れるにつれ、笑顔も見られるようになりました。

将来、真岡高校定時制に進学する生徒もいるかもしれません。生徒会役員も、懸命に交流に参加したようです。

## ●学年を越えて交流

新生徒会役員が企画した「定時制祭」が、11月8日（水）、多目的ホールで行われました。



今年度は、学年対抗ではなく「くじ引き」で集まった、学年を超越した生徒達を作るチームで競うゲームが行われました。

初めは戸惑っていた生徒たちでしたが、種目が進むにつれて次第に和気あいの雰囲気ができ、会場は盛り上がっていました。

以下に、参加した生徒の感想を載せます。

・学年バラバラのチームだったので、他学年の生徒と交流することができました。

これからも、学年関係なくコミュニケーションする必要があると感じました。

(4年次・中村けんちろ)

・クイズ、椅子取り、絵しりとりなど、いろいろなゲームを楽しめました。順位を発表してくれたらもっと良かったと思います。

(4年次・下川弘之)

### ●「まさか…」は、身近で起きる…かも。

暖房使用の時期に入った11月15日(水)、「防火防災避難訓練」が行われました。

今回の「訓練」では、生徒一人一人の顔つきを注視して見ていました。残念ながら、にこにこしながら集合する生徒もいましたが、ほとんどの生徒達は、しっかり訓練に参加できたと思います。

その後にAEDの操作訓練が行われました。これまで、実際に使用した生徒はゼロ。使用する機会が少ないのは良いことですが、いつ、その場に居合わせることになるかわかりません。操作方法をしっかりと記憶しておいてほしいものです。

次に、参加した生徒の感想を挙げます。

・何時、何が起きるか分からないので、常に準備をして、「万が一そのようなことがあったら、どうすれば良いのか」を知っておく必要があると思いました。

(1年次 清本はるみ)

・災害は何時起きるか分からない。だから、「必ず起きる！」と考えておく必要があると思った。

(1年次・鈴木隼人)

### ●私たちの街をきれいに。

本校恒例行事、「地域ボランティア活動」が、熊井清晃先生を中心に11月21日(火)、真岡西ロータリークラブとの合同で行われました。当日は、宇都宮ケーブルテレビの取材も入り、生徒達はいきいきとした態度で、高寺交差点を中心に東西南北に分かれて、いわゆる「まちなかクリーン作戦」を行いました。

帰校後、一緒に活動をしたロータリアンとともに「給食」を食べて、交流を深めたのです。学校は孤高の存在ではありません。むしろ、地域の皆さんに育てられる要素もたくさんあると思います。これからも、学校と地域が連携して、「近未来の大人たち」をお互いに高め合って参りたいと思います。

### ●「一度だけなら」が、一生を破壊する！

12月13日(水)、真岡警察署の生活安全課、前原俊彦課長を講師にお迎えして、「薬物乱用防止講話」を開催しました。

私たち人間は、思うほど、強い理性を持っていません。誘われるがままに行動してしまう危険性は全ての人にある、と言っても過言ではないようです。

・一回でも手を出さずだけで、ずっとやめられなくなるなんて怖い。勧められても、直ぐにその場を立ち去ることにする。

(2年次・高橋 萌)

・暴力団関係者の資金源になっているようだ。自分の身は自分で守るようにしたい。

(4年次・小林拓郎)

### ●寒さを吹き飛ばす歓声が…。

今年は、早くから寒さの厳しい日が続いていますが、二学期も押し詰まった12月21日(木)、校内体育大会(バレーボール)が、本校講堂で行われました。

各チームとも、体育の授業で鍛えた技とチームワークを発揮して、元気にプレー。決勝戦はフルセットまでもつれましたが、接戦の末、4年次チームが勝ちました。

結果は、次の通りです。

優 勝	4年次1組
準優勝	2年次2組



## ●自分づくりの旅に出よう！

乾燥注意報が続く晴天の12月22日（金）、多目的ホールにおいて 第二学期の表彰・表彰伝達式と終業式が行われました。まず、表彰関係の一部をご紹介します。

### ◎第2学期皆勤賞受賞（11名）

- 1年次1組 佐藤政則 高田智也
- 2年次1組 大高紘章 関谷優作 田上祐子 増淵晃大 吉羽彩花
- 3年次1組 佐藤未来
- 4年次1組 下川弘之 高田直也 中村けんちろ

### ◎栃木県高校定通制秋期体育大会

- 卓球 男子団体 準優勝
- 女子団体 優勝
- 男子個人 優勝 片岡龍佑
- 女子個人 第3位 田上祐子
- サッカー 第3位
- 剣道 男子個人 優勝 石川飛砂雄

### ◎第68回芳賀郡市教育祭賞 原田えいじ

### ◎第68回芳賀地方芸術祭

- 詩 部門 入賞 塚田優也 白川瑠絃
- 短歌部門 入賞 田上祐子
- 俳句部門 入賞 入佐 嵐 清本はるみ 関谷優作 鈴木政平

続いて行われた終業式で菊地校長先生は、今学期の生徒達の活躍を話されたあと、「新年を迎えるにあたり、あらためて、これからの自分の人生をどうしたいかをよく考えて欲しい。だれにでもチャンスはある。でも、そのチャンスに気づかない人もいる。周りの人との関わりを大切に、常に感謝の気持ちを忘れずに友達を大切にすれば、自然と『運』がよくなり、チャンスを掴むことができるものだ。つまり、常に『自分づくりの旅』を心に留めて生きて欲しい。」と話されました。

人間は、日々、成長します。失敗もするでしょうが、私たちだけに備わってる「向上心」を持ち続けて、生徒には貴重な高校生活、青春時代を送って欲しいと思います。

## ■第二学期の出席状況（％）

1年次1組 98.1      2年次1組 91.9      3年次1組 82.6      4年次1組 94.6  
2組 97.0              2組 88.0

## ■第三学期の行事予定について

本校では、前月の下旬に、生徒の皆さんを通して次月の「行事予定表」をお渡ししております。保護者の皆様には、その「予定表」をご覧になって、生徒たちの行事・活動を掌握していただきたいと存じます。（係）

### 白布の風～あとがきに代えて～

皆さんにとって、2017年はどのような年だったでしょうか。今学期も、定時制後援会の鈴木会長を中心に皆様のご協力やご支援、また、PTA役員の方々のお力添えをいただき、無事、過ごすことができましたことをご報告いたします。

振り返れば、夏らしくない長雨や曇天の続いた今年の夏。国際間では、隣国の軍事的威嚇や多数の漁船の漂着、我が国の防衛力強化策の策定、温暖化等による大洋の漁獲高の異変など、あまり楽しくない話題ばかりが次から次へと耳に入ってきました。アラートに驚かれた方も少なくないと思います。

しかし、これが現実。このように先行き不透明な世の中に、将来、大きな希望をいだって羽ばたく本校生には、高校で培った「生きる力」を発揮してほしいと、これまで以上に思わざるを得ない昨今です。

ともあれ、本校生は皆、事故もなく年の瀬を迎えました。どうか、ご家族そろって楽しいお正月をお迎えになってください。

第三学期は、1月9日火曜日が始業日。生徒の皆さんには、正装で、笑顔で登校してほしいものです。

保護者、後援会会員、地域の皆さま方、どうぞ、良いお年を！

記録・広報係